

1 題材の目標及び題材構想

「作物を育てよう」(13時間完了)

(1) 題材の目標

- ① 栽培に関心をもち、意欲的に作業を進めることができる。(関心・意欲・態度)
- ② よりよい作物を作るために、手入れの方法を工夫することができる。(工夫・創造)
- ③ 作物の生長を継続して観察し、摘芽など適切な作業をすることができる。(技能)
- ④ 様々な作物の特性を知り、種類に応じた作業方法を理解することができる。(知識・理解)

(2) 題材構想

小題材	各過程のねらい	時	学 習 活 動	教師の支援及び評価(☆)
1 土作りをしよう (4月上旬)	○栽培に適した土の特性を理解する。	1	◎土を起こし、石灰等をまいて中性化する。 ・単粒構造と団粒構造の土を比べて、その違いについて話し合う。 ・酸性化が進んだ土では、作物が育ちにくいことを知る。	・3～4人のグループに1つの場所を指定し、畑にするよう指示する。 ・単粒構造と団粒構造を理解するために、運動場の土を用意する。 ☆畝の大きさは適切か。(観察)
2 苗を植えよう (4月上旬)	○作物の生長を考えた畑作りをする。	2	◎畝作りをし、作物に適した元肥を入れる。 ・排水性をよくするために畝を作る必要があることを知る。 ・地中深く伸びる根に肥料が行き渡るように、元肥を入れておく必要があることを知る。	・グループに1本鍬を用意する。 ・元肥となる肥料を用意する。 ☆苗の間隔は適切か。(観察)
3 栽培技術を学ぼう (5月～7月)	○作物の生長に合わせて適切な手入れをする。	3 8	◎栽培計画を立てる。 ・作物は私たちの生活に利用しやすいように改良されているが、人が手を加えていかねば育たないことを知る。 ・1グループで4種類の作物を作り、生長の様子とそれぞれ適した手入れの違いを理解する。 ◎かん水をする。 ・作物によって、水の量を調節することを知る。 ◎支柱を立て、誘引をする。 ・作物の種類によって方法が異なることを知る。 ◎敷きワラを敷く。 ・敷きワラの効果を考える。(梅雨時に土が跳ね返るのを防ぎ暑い時には乾燥を防ぐ。また、雑草の防止にもつながる) ◎摘芽をする。(作物等の茎の頂芽を除去すること) ・芽を摘んでしまう理由を考える。(わき芽を取り除き、茎の先端の生長を促す) ◎追肥をする。 ・苗と追肥の位置について考える。(根は先端から養分を吸収しており、生長に合わせて適切な位置に肥料を与える) ◎摘しんをする。 ・茎の先端を切り取る理由を考える。(結実やわき芽の生長を促す) ◎肥料について考える。 ・育てる作物によって必要な養分が異なることを調べる。(窒素、リン、カリウムの3大要素) ◎病気と害虫について調べる。 ・観察した作物の様子から気になることを資料で調べる。 ◎栽培方法の工夫を調べる。 ・栽培方法を改良していくことによって、よりよい作物の収穫ができることを知る。	・栽培日誌を用意し、毎日の手入れの様子や、作物の生長の様子を記録するように指示をする。 ・こまめに生徒の作物の様子を観察し、生長に合わせた授業展開ができるようにする。 ・栽培日誌の観点 ・日付 ・天気 ・かん水 ・作物の様子 ・手入れ ☆正しく手入れを行っているか。(栽培日誌) ・雨天時の授業内容として行う。 ☆手入れの方法について考えることができたか。(ワークシート)
4 収穫した作物を家庭で調理しよう	○家庭で家族と共に調理することにより、身に付けた技術が生活に役立つことを知る。	9 11	◎収穫をする。 ・収穫には適切な時期があることを知る。 ・作物の出来栄や手入れの様子を他のグループと比較して、作物の生長に関する様々な条件を見付ける。 ◎調理の記録を記入する。 ・作物を家庭に持ち帰り、家族と共に調理して、作り方を記録する。	・収穫した作物を観察することにより、適切な作業ができたか振り返る。 ☆収穫した作物を調理することができたか。(調理の記録)
5 栽培リポートをまとめよう	○作業を振り返り、手入れの過程をまとめる。	12 13	◎リポートの作成をする。 ・作物の生長に合わせて適切な作業が、よりよい作物を作ることを考える。	・作物の生長過程を明確にしてまとめるように指示する。 ☆よりよい作物を作る方法について考えることができたか。(リポート)